

PREVENTION No.273

平成27年6月18日開催

私の生き方～矯正施設、入院、そしてマックに出会って

川崎マック 青木知明 先生

私の生まれた家は複雑な家庭環境ではありましたが、両親ともお酒もたばこもやらず高学歴で母は英語の教師、父は医大の教授、また姉も美大の講師、弟も節度を持ち家庭を大事にしている人で、「なぜ？俺だけがこんなに酷いアルコール薬物依存症の出来損ないなのだろう？どうしてこうになってしまうのか？」といつも悩んでいたようにも思えますし、「いやすべて自分の選んだ道だ…わざとこうしているんだ！」と自分でも何がどうなっているのかわからないくらい複雑に捻じ曲がり、自棄になり諦めていた気がします。

しかし、今年の1月に美大で講師をしていた姉がまだ50歳という若さで癌で他界したことによっていろいろなことが明らかになり、生き方に苦しみ、病に陥っていたのは自分だけではなく、むしろ2歳年上の姉こそが複雑な家庭環境の中でもっと悩み苦しんでいたのだと知り、もう少し早く姉と話し合うことが出来ていたらと…もし姉がプログラムにつながっていたらとつい考えてしまいます。

姉の状態を知ったのが年末の23日で母から「姉が末期癌で築地の癌センターに入院している。もう持たないかもしれない。」と連絡が入り、駆けつけた時には脳梗塞を起こし言葉を失い表情も乏しくなり顔も髪の毛も真っ白になっている寝たきりの姉の姿でした。1日おきに通い付き添う中で、学生時代からずっと27年間同居してきて病床にも付き添ってくれている姉の友人からは、姉は「昼間はきちんと仕事をして、家に帰ってお酒を飲みだすと止まらない、そして必ず恨みつらみを吐き出しながら最後はリストカットをするという行為が35歳まで続き止まらなかった」と聞き、その真っ白でやせ細ってしまった腕いっぱいの切り傷の痕を撫でさすりながら涙がとまりませんでした。姉も私と同じ病気だった！

私は3人兄弟の真ん中の長男で、一人だけグレて暴走族にチンピラやぐざ、20代は事件を起こしては逮捕され、を繰り返して、30歳で死亡事故を起こして刑務所に行った私は、その後、精神病院の入退院を繰り返して自助グループにつながったお蔭で酒、薬を止め続けることが出来ているから生きているけど、問題が表に出なくて飲み続けていた姉はこんなにも早く他界してしまうことになりました。

30歳の時点で死亡事故を起こして自暴自棄になりありとあらゆる酒と薬を過量摂取し続けて病院でのたうちまわっていたその時の私は親兄弟の目から見ても「もうこの子は長くない、死んでしまおう」と思われていたそうですが、その私が今、こうして生きているというのはどういうことなのか。

現在も80歳を前にして健在な父と母は、父のアメリカ留学中に姉と私を生み、姉が3歳、私が1歳の時に日本に帰り、世田谷区に暮らしますが私が小学校に上がる前に父は不倫して家出、また大学教授と学生時代から不

倫して祖父母と縁遠くなっている叔母が同居し、私の記憶ではほとんど父の姿の無いままに、「お前は長男なんだから医者になって父を見返せ！」と言われ続けて育ちました。学童保育や教会学校、警察署の少年柔道に書道、塾、家庭教師と母は私の教育には必死だったと思いますが、私はというと仲間を作っては万引きに喧嘩。塾をさぼっては繁華街のゲームセンターに入り浸っていました。その頃の記憶では、神父様の前で1時間も泣きわめき続けるかわいそうな母、兄弟3人をつれて父の愛人のいるマンションに乗り込み、何もわからずその家にいる2人の赤ん坊と戯れるまだ幼い姉と弟を、その夜、夜中まで「あの女の子をお前たちは！」と罵りながら、正座させ叩き続ける般若のようにおそろしい母。私にとって家は暗く恐ろしい空間で中学受験の失敗からますます自分は母親の言うことの聞けないこの家にとって不必要な子供になったと思い込み、仲間と一緒に喧嘩、万引きしている時のスリルと興奮だけがますます世界を輝かせていくようになり、その世界に逃げ込むようになりました。

ちょうどそのころから酒、たばこ、シンナーが先輩たちや仲間にも認められるためのツールとして私の世界に入ってきました。姉や弟と違い、一人身体が小さく劣等感の非常に強い自分には、なじむにも苦労はしましたが、あつという間に手放せないツールになっていきました。

母の恨み言の「青木のおじいさんは酒乱で教職を首になって、酒を飲んではおばあさんを殴る酷い人」、「お前には青木の酒乱の血が流れている。一代送りのキチガイの血だ。」と幼い頃から責められて、この頃から母に反抗するにはアル中の酒乱になってやろうと思うようになりました。

果たして何とか高校には入ったものの酒を飲んで繁華街で喧嘩、乱闘を繰り返し、2年に進級したものの警察沙汰を繰り返しては無期停学を繰り返す。父と母は13年にわたり離婚訴訟を続けていて、警察沙汰も無期停学も母親が駆けずり回って泣いて頭を下げて示談してもらい首の皮一枚でつながっている始末でしたが、私は酒、大麻、覚せい剤、刺青とエスカレートしていく一方でした。そして毎晩のように新宿、渋谷、下北沢のディスコ、クラブ、ライブハウス、仲間とツルんでの喧嘩沙汰。19歳の時にはとうとう下北沢のクラブでの貸切パーティーで喧嘩沙汰からこちらの仲間が相手をナイフで刺して殺してしまう事件になり、その年には溜り場だった世田谷の実家が隣の家の火事の類焼で全焼してしまいました。“家”が無くなり家族バラバラで一人暮らしをするようになって酒、薬、犯罪の無軌道ぶりは抑えが利かなくなり、成人してすぐ養子縁組をして暴力団組織に入りました。この頃、母を説得してくれと栃木から叔父が私を探して訪ねてきて、義理の弟達が私生児のままに小学校入学を控えていることを知らされ、自分が離婚しろと騒いだのにいざ離婚して自分が父の戸籍に入っていることを知ると母に見捨てられた気分になり、本当は辛くて仕方なかったら自分生まれ故郷を見ようとアメリカ行きの航空券を買いますが、渡航前に入った薬の取引を選択してしまい、その縁から件の縁組をしてしまいます。

「俺はだれにも迷惑を掛けないで一人で生きているんだ！」と必死で自分に言い聞かせていました。

生業の露天商はほとんどやらず、覚せい剤の売人、恐喝等の犯罪行為を繰り返し、酒、薬はひどくなる一方で21歳で1回目の断指。23歳で覚せい剤、賭博開帳凶利幫助、逮捕監禁恐喝の3件の事件で逮捕。2年の拘置所生活から懲役3年執行猶予5年の保護観察、しかし振り返ってみるとこの頃からすでに依存症の重篤な症状は出現していて、被害妄想、追跡妄想、幻聴幻覚は拘置所の中から、そしてシャバに出てまた酒、薬を使うたびにひどくなって行き、幻聴幻覚を起こして弟と彼女の前で泣き崩れてしまった自分はもう東京でヤクザはやれないと、

彼女の実家の名古屋へと逃げました。しかしそこでもまた仕事は変えて縫製工場で働くも酒を飲み、薬も手に入れる様になり皆に隠れて使うようになります。頼った実家のお父さんが借金返済の保険金目当てに自殺してしまい彼女は妊娠して未婚のまま長女を出産し、家族3人で暮らすマンションに移り、長距離トラック運転手を始めますが酒、薬は続け、幻聴幻覚は一層酷くなって行き、ついその年のクリスマスイブの朝、関越自動車道の入口で6台玉突きの衝突事故を起こしてしまいます。大けがをし車いすで入院している私は民事並行、在宅起訴のまま、11年ぶりの母の元に未婚の彼女と生後4か月の娘をつれて身を寄せますが絶望感と罪悪感、それよりも強い強迫観念に囚われて連続飲酒、そこから肝硬変、胆のう摘出、急性膵炎を繰り返し、入院を繰り返しながら狂った頭で当時大学病院の教授の父親に強迫電話を訴えられるまでかけ続けました。追い詰められた自分の、必死の母に対する迎合だったのだと思いますがこの時、自分は「腹違いの弟が医者になっているのに、長男の俺はチンピラやくざの屑の人殺しじゃないか…」と自己憐憫に狂っていました。

服役、満期出所後も酒薬でますます悪循環に陥り、娘を取り戻せるように稼ぐはずが借金、トラブル、逃げた彼女を逆恨みして偽装結婚、ついには組織を逃げ出し、精神病院入院、強制退院を繰り返しました。

この間、酒薬を手に入れるためなら外国人犯罪者の運転手、援助交際の手伝いと自分が一番なりたくない屑に成り下がることもなんともなくなってしまう自分が、今回、このスピーカーのお話を薦めてくださった看護師さんに、2回目の精神病院の病棟でお世話になり優しく接して頂き、まず酒、薬を手放すことが出来、自助グループにつながる事が出来たところから、だんだんと私自身にも変化が起き出したようです。

1日3回のミーティングに毎日通うようになってからは恐れと不安から正直な自分の過去の素性、事件、服役の話などけっしてできなかった自分も目の前で正直にそれらの話をしてくれる仲間の前では、少しずつ話せるようになってきて、グループに入り仲間ができて、スポンサーと出会うことができました。

居場所ができ、仲間が増え、12ステップのプログラムが進むにつれ、私の新しい世界は広がり、明るさを増してきました。「あなたの経験が必要な人が必ずいますよ」この言葉を信じて矯正施設メッセージをライフワークとして続ける中で今の職場に迎え入れていただきました。

まだまだ未熟な自分には信仰を持つことが必要だと感じ勉強していますが、今の環境の中で、仲間や職場の支えの中で、ステッププログラムを続けて回復成長したいと思っています。